明治二十三年十一月一日印刷
明治二十三年十一月一日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第十四號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌
第十四號
目次

食物は諸品を取雜へて用ひ　飛田眞吉寄稿
單一品を用ゐざるを要す
看病法に就て　笠原光興君
乳母及兒護婦に就て　宮本仲君
衛生叢話
本會錄事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第十四號
明治廿三年十一月一日發兌

食物は諸の品を取雜へて用ひ單一品を用ひざるを要す

贊成員　飛田眞吉君寄稿

人の食物は肉類に偏せず、植物にかたよらず、五穀、蔬菜、菓實、魚肉、獸肉、等を併用るにあらざれば、十全の食物とは云われません、只一品で十全の食物となし得るものは、乳汁ばかりであり升、乳汁は皆さま御承知の通、赤兒の未だ自ら動植物を併食する事の能わぬ者を養ふ爲めに出來たるものにて、普通の食品に含める營養質は、悉く含み且つ天然適宜の溫度を有するものであり升。

然して乳汁の中に含める營養質は、多量の水に溶解して流動液をなし、人の乳汁に依つては大凡そ百分の九十は水にして、十分は固形質で、其中補料一分、燃料四分（補料とは肉質を養ふもの　燃料は體溫を保守するもの）の比例に適ひ、壯年の人の諸品を取雜へて食する時と、其化學的混合の諸成分等割合略同じであります。是れ小兒は齒牙も整はず、自ら運動する事も叶はぬ故に、單に乳汁のみにて善く生命を保つに足るも、年月を重ねて襁褓を脱する樣になると、最早單一の食品にて營養諸質の眞配合を得たるものは在ませぬ。

假令ば肉類は窒素と脂肪とに富めども、粉質に乏しく、植物は概して糖分と澱粉とに充分なるも、窒素の料に乏し、麵包は窒素粉質の二料や鑛物質は多くあれども脂肪少き樣な譯であります、亦人の生命を存し心身の活力を維持するに最も樞要と云わるゝ蛋白質すら、猶之れのみを常食にして他の食品を用ひざる時は、食物經濟の眞理と衛生の原則を欠くものと云ふて可なり、如何とあれば假りに玆に人ありて蛋白質の随一とも云ふべき雞卵白みを喰ひ、其生を

保つとすれば、卵白の中に大凡そ炭素百分の五三、窒素一五を含むものと見做し、炭素は窒素の三倍半に居る率てあり升、而して近頃諸學士の驗査に由れば、健康にして頗る活潑の業を執る人にありては、概ね二十四時毎に炭素六十八匁窒素五匁一分を食するを要し、即ち炭素需用の量窒素の十三倍なるにより、今炭素六十八匁を躰内に資用する爲め、百二十八匁三分の卵白を喰ふ時は、此中に含める窒素を十九匁二分四厘兼食し、窒素需用の適量五匁一分よりも多過ぎる事、殆んど四倍に及び、其差十一匁一分は、全く無用のもの也。

此例を平翻して云へば、一晝夜毎に費やすべき炭素六十八匁を得るには、四斤〔四百八十匁〕の鮮獸肉〔肉中四分の一は脂〕を用ゆるを要すれども、五匁壹分の窒素を調へんには、僅かに百二十匁の獸肉にて足れり、故に蛋白質のみにて生命を全ふせんとする人は、許多の量を需用せざるを得ず、而して消化機は無益の勞働を與し、空しく排泄物として躰外に出さしむるもの多し、消化機の徒勞は猶恕すべきも、啻に以上の蛋白のみならず脂肪も粉質も鑛物質も總て此等の單一品のみを常食とし、連用する時は大に健康を害し、遂には生命を斷つに至るべし。

泰西の諸名家嘗て狗豚驢等の動物に蛋白質、護謨、澱粉、の如きものを與へて飼養せしに、其各品へ他の物品を交へず、單味を與へしに、恰も食物を用ひざるが如く、諸動物皆速かに饑餓の兆をあらわし、遂に斃死し又諸食を混和したる雜物を與へたるものは、食品純良ならざるも始終異狀なく健全なりしと云ふ。人類も亦動物の一種なるを以て、此試驗に原つき造化の妙理に違ふ事なく、諸食を並具して人生の榮養を保守するは一大要事なり。

斯く諸品を兼食するは、一大要事にして、且併食す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るのみならず、又調理法に注意すべし、如何となれば味惡しき時は、嫌忌の念を起し、終に其食品を受容するの量減少すればなり、故に食物は可成品類を交換すべし、若し之を異にする事能はざる時は、宜しく調理の方法を變換し、味宜しきを得る時は、單に食欲を進むるに止まらず、消化機能も亦從て亢進す。

看病法に就て（六月例會講演）

笠原光興君演說
青山滿次郎筆記

私は今日看病法と云ふ題を出しまして、看病に就ての御話しを申し上げる積りで御座います。

ソコデ看病と申しますると、貴婦人方の御宅や或は御親類の中に万一御病人があつた時に始めて入用なので、平日には余り必要の事ではありません、否な斯う云ふ御話しと云ふものは實に余り緣喜のいゝ御話してはないので御座んす。

併しながら人の身體と申しまする物は、所謂病の器でからに老病死即ち年を取ることゝ、夫れから病氣と云ふ事、死すると云ふ事、此三ッは何うしても人間の免がるゝ事は出來ない者で有ります、今立派な貴婦人方の如き御令嬢方や奧樣方も今こそ御年が御若かう御座いますが、年數が經つに從つて矢張り頭に霜を頂いて孫の御世話を成さらなければならない時が參りますので、何うしても人と云ふ者は何時迄も若くて居ることは出來ん、其の中には到底老人になる者である、又此の年を取る事、死なねばならんと云ふ事と同じで、人の此の世に生活する以上は必ず何時々々病に罹らないとは云はれません。何うしても此世を渡るには種々困難ある坂を踏んで其の中には病氣に罹る事もある、それを切拔けて始めて幸福なる長命をする事が出來る、故に此看病法も貴婦人方なり或は御親戚なりの中に、万一御病人でもあ

つた時は多少の御參考にもならうかと存じて、今日は看病法と云ふ事に就て少しく御話しを致しまする積りで御座います。

ソコデ看病法と申す者は、實に自分に取りて必要であり又人に慈善を施す事が出來る、即ち人と云ふ者は慈善の心を以て人の不幸を恤まなければなりません、人に慈善を施すには實に看病法は必要の者であつて、若し自分が看病の仕方が善くて其病人が九死一生を出て全快すれば、夫程自分の心に愉快の事は御座んすまい、夫故に人たる者殊に一家の政事を掌どる所の御婦人方には看病法の大畧位は申上げて置くも敢へて無益でなからうと存じて少しく申述べます。扨て看病法と申しましても一の學問であり、又一の技術でありまして、そう容易く出來るものではありません、生理とか病理とか云ふもの丶大畧位は知らねばなりません、又室内の空氣の流通即換氣法とか、温度の事とか、夫れから食物の事とか、或はもつと細かい事になれば灌腸の仕方とか、發泡の張り方とか云ふ樣な事があつて、中々に一朝一夕に御話しは出來ん、又御話しをしたからとてもそう直ぐに御分りになるものでも御座いません、夫は即ち看病専門の事で私は今日斯の如き事を皆樣に御話申すのではない、唯私が病家に參りまして病人を診て考へ附いた事が御座いまするに由つて、其個條の一二を皆樣に申し上る積りで御座います。看病學とか看病法とかに就て順序を立つて申すのでは御座いません。唯御素人の心得となるべき私の氣が付いた事丈けを御話申すのみで御座います。

ソコデ看病と申します者の一番困難なのは即小供の看病でありまする、小供の病氣の時には隨分御婦人方に取つては御骨の折れまする事でありまして、又最も看病の必要な事でありまする、特に小供が發

風にでも罹つた時などは餘程手當が重な事でありまして又驚風抔でなくとも生質弱い小供なれば之を生育するには平日兩親の注意、殊に母親の注意が極めて肝要なのであります、併しながら此小供の看病に就きましては猶又小兒科專門の學者が數多ありまするから其等の方より御話しのある事もあらうと存じまして、私は是を省き置き今日は主として急性病の看護法に就て御話し申す積りで御座います。

ソコデ病にも色々に種類がありまして、中には療治をせんでも自分から治る病氣もありますし、又如何に名醫が手を盡しても到底治らん所の病氣もありまする、夫れからして又極重い病氣で一命に關する程の者でありましても、隨分醫者や看病人の處置宜しきを得た時は全治する所の病氣がありまする、又同じ病で御座いましても其病の勢力の重い輕いに由つて治る治らんの關係のある者でありまする。又年齡にも關係がありまして同じ病氣でも壯年の者には左程怖しくなくとも、老人には大變に恐るべき病が御座います。

先づ第一に自然に治る病氣の例を引て申しますれば、一寸是から夏が來ると能く食傷するとか（香物でも食べ過ぎて食傷するとか）或は此の節の流行の風でも引くと云ふ事が御座いまする、是は實にさしたる病氣にはあらず大概は自然と治る病氣であります。第二に其治らん病氣と云ふと先づ肺勞とか（俗に云ふ肺病）或は心臟病とか云ふ病氣でありまして、實に治り難い者でありまする、第三に醫者の一番手を盡くして効があり、又看病法の効のある病氣は即ち急性の病氣であります、（勿論悉く然らざるも）此急性の病氣は看護人や醫者の手當の仕方の善惡に依つて助かる者もあるし、死ぬ者もあるといふ次第で有つてからに實に是等は看護の必要なる病氣で有りま

する、此の急性の病氣と云ふ者は一度は極く病氣が烈しくあつて、假令ば傷寒の如きは一時は随分熱が烈しくつて苦しい病氣ですけれども、一定の日數を經ますれば是等の者は段々に治ります、僻田舍抔ではは病氣のとき唯家に寢て水を飲むで居て自然に快くなる者が澤山にあります、そうして、見ると病人は打捨て丶置ても宜しいかといふ問題が起ります、自然と治る者なれば醫者や藥は入らぬかと云ふに決してうそ云ふ者では御座いません、自然と治る病氣でありましても其の病氣の經過中には、色々の俗に云ふ變と云ふものが參りまする、其の危いものを成る丈防衛めて置くには即ち醫者や看病する者の一番骨の折れる所で有ります、夫を防止め食止めて居るうちには病氣は自然と治りまする者でありまするから、若し醫者や看病人が拙くして、之を防衛切れぬとか、或は醫者や看病人は如何に其術に巧みたるも、本來病氣が非常に重くして防ぎ切れぬ時は、遂々其人は一命を損じまするので御座います。夫故に急病人に於ては醫者や看病人の些も骨を折らなければありません非であつて、又其骨折といふ者は中々一通ではないのです、併しながら其骨折で病氣の變を防い止めてしまへば其中には病氣が治る、病氣が治れば骨折りの巧能も見へまする者であります、例へば雨が非常に降てからに隅田川に洪水が出たとすると、若し其洪水にして昔しの「ノア」の時代の大洪水の樣にでもあつて滔々として天に接し地を埋めて仕舞ふ樣なら勿論拒ぐ事は出來ません、ソレと同じで病氣も余り重く為つては手が繫くませんが、左程非常に重くない時即ち千住の堤が斷れて東京市中に洪水が押來るとか吾妻橋が落ちたとか云ふ位なれば、能く堤防に力を盡して拒ぎ止めて居るうちには、雨も自然と止み水勢も退きませう、病氣にしても之と同じで

一番盛の時には骨は折れても夫を拒ぎ止めて居る中には、病勢も自然と退く者で御座います。

然るに能く世の中の人の言ふ事でありまして、若し病氣が醫者や藥で治る者ならば天子將軍は千年万年も生る筈であると申しますが、ソレは勿論病氣に由つた者で有つて決してそう云ふ譯のものではないのです。

醫者や看護の効能で治る事は澤山あります、然るに看護にも手を盡さず醫者にも掛けず死するのは、壽命づくだの天命だのと考へて居るのは是は所謂自棄自棄と云ふもので甚だ宜しくありません、何でも病氣の時は盡せるだけ手を盡して看護しなければなりません、其の他病氣でも慢性の病氣即ち心臟とか肺勞とか云ふのは余り醫者の効能が見へませんもので御座んす。假令ば是は河の水を拒ぎ止め樣としても大切なる堤防に虫が食ふたとか、穴が明いたとか云ふ樣なもので自然々々と人間の躰が崩れて來る如何しても其の堤防を作り替へるより外に仕方がないのです勿論河の堤防で御坐いますると作り替へる事も出來、隨分金を掛ければ立派に改造する事が出來ますけれども、人間の躰は作り替る事は出來ませんから遂に其病人は死にます、けれとも急性病と云ふ物はそうゆふものでなく水を拒ぐ事が出來るかどふかといふ境であつて、若し一時拒ぎ止れは水の減く瀬があるのです、夫故に此の種の病症なれば隨分看護婦や醫者の力で治る事があるのです。

ソコデ前に申し上げました通り病氣の中にも自然と治る病氣もありますし、又醫者や看護婦の力に由つて治る病氣もありますし或は如何なる名醫に掛つても治らん病氣がありまするが、何卒此急性の病氣の時には充分注意して醫者は勿論の事親戚の者は能く看護して此の者をして生命を全ふする樣にさせんけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ればなりません、ソコデ私が今日斯の如き御話しを皆様の所に來て致しまするのは何故かとなれば、今日此東京府下に於ては續々として腸窒扶斯か流行て居り又小兒には馬痺風と云ふ病氣があり、其他此節は肺擑衝といふ病氣がありまする、是れは何れも病勢は烈しく蔓ります併しながら若しも夫れを持ち堪へれば其の病氣は隨分治る事の出來るものですから、斯の如き御話しを致しまするのです、併し私は敢て細かい事は申しません、只皆様に一ッ二ッ實際にあつた例を引いて御話しを致して置うと思ひます、と云ふのは、看病法の仕方の惡るいに依つて死なんでも善い命を死んで仕舞た者が澤山あるからして、此實際の御話しをして置ふと思ふのです、總べて虎列拉とか腸窒扶斯とかいふ病氣は傳染する病氣てありますから、是等の病氣が流行し始まつたならば殊に豫防法に注意しなければなりませんのです、若し御近處までも斯ふ云ふ病氣が發した時には、猶更注意しなければなりません。即ち成るべく家宅の掃除に注意するとか、或は飲料水に注意して水を生で飲まずに一度煮てソレを冷してから飲むと申す樣にしなければなりません、其の他患者が自宅に出來た時には充分に大便の消毒に注意し尋常の人の大便と一所にしない樣にし、或は患者の夜具衣服等にも余程注意しなければなりません、併しながら世の中の人には隨分馬鹿な人間が澤山ありまして、如何に醫者が嚴しく云つても聽かずに、患者を尋常人と同じ厠に連れて往つて大便をさせるとか、又そう云ふ病にかゝつた時主任の醫者からして早速傳染病屆を致しますと、巡査か來て注意するから傳染致しませんが、「屆ける抔とは面倒な」とか何とか云つて傳染病屆を嫌ふ病家があります、夫れが爲めに消毒法が充分に行はれませんで自然と一人にうつり二人にうつり感

染し、遂には家内中にうつる樣になりて仕舞ふのみならず近隣の人にまで傳染させる事が澤山あるのです夫が爲め同じ家に三人の窒扶斯患者があるとか、四人あるとか云ふ事は本年度の窒扶斯流行時には澤山ありました下等社會は仕方がないが、上流社會に居る人々は成るべく消毒法に注意しなければならないと、云ふ者は、其一人のみならず相及ぼして三人も四人も命を殞す事が御座います。而して是等の事は男子よりも始終御宅に御出なすつて家の政を取つて居る貴婦人方が最も御注意なさらなければなりません、彼の小兒に取りて恐ろしい所の馬痺風と云ふ病氣がありまするが、是等の患者の出來た時には他の健康なる御小供衆は親類へ預けるとか、特又患者を病院へ入れるとか、成るべく患者と他の小供と一所に置てはならんのです、然るに何しても親が膝下で治療したがり夫れから外の兄弟と一所に居つて、とう／＼一人から他の子供に傳染て五人ある小供を悉な死なした抔と云ふ例が澤山ある、故に馬痺風病は一人患者が出來た時には余程御注意なされませんと隨分其の毒は烈しいから不測の害を起します、現に或る家では四年あとに馬痺風で長男を死くして今年になつて又三人斗り其弟達を死くしたと云ふ例がありまする。シテ見ると其毒は實に烈しいもので三年でも四年でも殘つて居ると見へます、そう云ふ次第ですから（是等の事は私が訥辨で皆樣に御話し致しても左樣御感じも御座いますまいが）此の傳染病の患者あるときは醫者の命を奉じて嚴重に豫防を爲さらなければなりません。夫れから患者の取扱に就て申します。是れは先刻も段々と御話し申したる通り、元來大概の病氣と云ふ者は自然の働きで治らう治らうと云ふ事に成つて居りまするのです、唯其の中に變が來ると命を殞すので御座んすから、成り丈

け是れを拒がなければなりません、又是を拒には余程注意しなければならない、ソコデ腸窒扶斯即ち傷寒の病氣であると第一食物に非常に注意して、是等の患者があると醫者が一番先きに食物を與へてはならん、假令ば稀粥とか鷄卵とか牛乳とかを與へる樣にして外には何も與へてはならんと命令を致します る、其の時は嚴重に其命令に從はねばならないのです、中には人間の躰は食べんで居ては勢力が衰へると云つて強ひて患者に食はする者が有りまするが、之れは大きに間違ひです、一躰此の腸窒扶斯と云ふ病は食物を消化しまする臟腑の中に潰瘍が出來るので御座いますから、可成胃腑は靜にせねばならんのです、若しも非常の下痢でもあつた時は藥で止めなければならない所に食物をやつては段々病氣を重ねるのであります、デ斯樣の病氣は假しや快くなつて來て熱がさがりましても醫者は十日あり二週間なりは御飯を食べる事を許しません、然る所「御飯を食べないでは不憫だ」と云つて食物を食べさせ、夫が爲めに命を失ふた事があります、今茲に一ツの例を擧げて見れば或る所に矢張り一人の傷寒病みが有つたが、段々熱が下がつて來て御飯を食たがる併し醫者の方では御飯を食べてはならん食べてはならんと云つて非常にコレを禁じました、然る所早く快くなる樣にと患者のお婆アさんが不動尊に供へた餅か何かを食べさせました、そうすると翌日から致して病氣が段々重く成て、とう／＼歸らぬ旅に赴いて仕舞いました、斯の如き例は實に澤山あります、昨年も或る所に患者がありまして熱も下がつて十日計り立ちましたが、併し未だ身躰が大分弱つて居るからして食物をやつてはならんと禁じて措きました、然る處病人は非常に食べたがるので其の傍らに付て居る處の母親さんが内證で餡麵包を三つ食べさせた、

そうしますと其翌日熱が上つて參りまして非常に容躰が變りましたから之れは何か食せかどうかしたのだらふと醫者が段々糺して見ました所が、始めの中は中々隱して居つて云ひませんでしたが、種々に訊問致したら遂々餡麪包を三つ食はせたと云ふ事を白狀致しました、ソコデ夫れが爲めに患者の熱が上つて來た處又候四五日立つと亭主が肺病で死にました、けれどもそんな事を患者に咄してはならんと申して醫者が堅く禁じて措きましたのに素人と云ふは馬鹿な者で、其の事を患者に咄した、何しろ亭主が死んだと云ふ事ですからして一晩續け泣きに泣いて居りましたが、遂に其の翌朝死くなつて仕舞ました、斯云ふ例は實に澤山有りますからして腸窒扶斯に罹りました時抔は隨分看護法を嚴しくせんではならん、醫者の云ふ通りを守つて決して妄りに食物を與へたり、又は詰らん話しを聞かしたり、心配に成る事を言つたりしてはならんので有ります。ソコデ又我が日本の風儀として私抔が患者を診に往くと見舞人や親類の人が澤山患者の枕元に寄り集り、非常に騷いで居るが一躰病人の枕元で騷がせると云ふのは極く善くない事であらうと思ひます。

成るべく斯う云ふ風の患者は靜にして精神を安めなければならんのですから、先づ見舞人や親類の者が來ても別の座敷で應接して決して患者には顏を見せん方が宜しい、若しそう無くして余り枕元で「ガヤツク」と夫が爲めに何しても病氣が快復致しませんから、是等の事も餘程嚴敷注意しなければなりません。實に看病法には嚴しい○○と云ふ事が一番重なる事です、其他斯う云ふ急性の病氣に成ると云ふと醫者が藥を配劑ますにも餘程注意をして用ゐるものですから、患者が「此の藥は大變苦いから……」と云つても看護人が嚴しく服ませんと醫者は皆な服んだ積り

て治療をするのに、患者が服まなかつたり何かすると大に結果が悪いのです、其他部屋も清涼にして室扶斯の患者抔は時々仰天に向いたり横を向いたりして、躰の位置を換てやらなければなりません。又病氣が能く成つても先づ大概醫者の方に規則が有りますから、熱が下がつても幾日目だから座つて宜しいとか、昨日座つて差支ないから今日は少し位歩るいても宜しいとか、十日も十五日も經つてからなれば庭に散歩しても宜しいとか云ふ命令を致します處が、患者が輕忽みをして未だ夫程に愈らん前に散歩をしたり何かをすると引返す事が有ります、故に斯う云ふ事には餘程嚴しく致さなければなりません、嚴敬醫者の命を奉じてやると云ふは看病の一番重もなる事で有ります、其の外看病をするには能く物事に氣を付けなければならんです、大概患者の脉は何の位う者である、躰温は何の位の者であると云ふ様な事位は心得て居つて、若し容躰が換つた時は急に醫者に知らせなければなりません。急性病は外の病氣と違つて二十四時間位に變ずる事がある故に是れ等の病氣のときは醫者も日に一度や二度は診なければなりません、併しながら醫者も忙がしいとそうは往きませんから、成る丈け手慣れた看病人を雇つて置て看病させるが宜しい、若しそう往かん時は家の者が注意して顏の工合から、便が出れば便の工合から、總ての事に注意しなければなりません。夫故に看病には極く嚴しいと云ふ事と、物事に注意すると云ふが一番大切なる事であります。能く「看病は親切にしなければならん」と云ふ事を申しまするが、勿論看病は親切でなければならんのです、誰でも親切な看病はイヤ處ではない一番親切が重なる者ですけれども、其親切と云ふ事は六ケしい者で、表面の親切もあれば、腹の中の親切もあるし、夫れから又本當

の親切と思つて仕た事も不親切な事があります。假令ば馬鹿のお婆あさんが孫を可愛がると同じで本當に可愛がると宜しいが、若し夫れが溺れると成長した上にて碌な者にならんのと同じ事で、物を愛するには大抵斯う云ふ風に愛さなければならん、ア、云ふ風に愛さねばならんと云ふ極りがある、夫を只極り無くするは眞正の愛で無くして溺れるのです、看病も其の通り腹が減つたらうと云つて物を食はせたり、退屈したろうと云つて馬鹿な咄しをする杯は、眞正の親切では無い則ち親切に溺れたので、何でも看病は注意と云ふ事と嚴しくする事、夫れを行なつた上で本當の親切な看病が出來るのです。實に此節は種々の病氣が流行りますから、萬一の事に就て皆樣の御注意までに御話申し上げて置きます、誠に詰らぬ御話しで御氣の毒樣でした。

乳母及兒護婦に就て

宮本仲君口演

曾て私は當會に於て「乳母を雇ふべき場合、幷に乳母と雇主との心得」と申す御噺を致しました。其時に私は乳母は濫りに雇はない方が却て宜しいと云ふ事を申上げたから、皆さんは既に御解りになりましたろうが、今日の日本の有樣では、乳母を濫用し、又兒護婦を濫傭して居る樣に思はれる、即ち乳母は乳汁さい出れば何う云ふ病が有ても、惡るい行いが有ても一向に構はぬ、兒護婦も子供さい背負得れば、痴呆でも老耄でも構はぬと云ふ樣に成つて居る、是れでは衛生にも教育にも害であり升。

乳母を雇ひますにも、乳が出さいすれば宜しいと云ふ者ではない、乳の性質も宜敷、之を飲んで子供に適當すべしと云ふ事は、今濱田先生よりも御噺しがあつたが、其乳性の外にて怒り易く悲み易く、つま

り情の感動が劇しき人は往けない。何故と云ふに、其感動じた時は乳が急に惡くなるから、是を飲んだ子供は嘔吐とか下痢するとか云ふ害が起て參る。左すれば一時の試驗で乳の分量も多い性も宜しいと云ふて直に雇入るゝ事は出來ない、然るを從來は一向是等の事を搆はずに、乳の量と性とのみを試みて其人の性質には一向に注意せず、如何なるものでも善と云ふ氣になりて居るから、大變に困ります。兒護婦に就ても其通り母親の手を離れて、朝から晩迄子ンネコシヨーを唄つて成るべく乳を飲ませに來ない樣、母に面倒を見せない樣にすれば、「是は大きに好い鹽梅の兒護婦で」と褒めるが、其實際に就ては信に其兒を親切に注意するか仕ないか、只背負て遁れ出し泣かない樣に於臀を毆ひて居ると云ふ丈けては滿足が出來ないでありませう。左れば兒護婦たる人は何う云ふ事をすれば宜しいかと云ふに、兒の健康に注意し又智育を助けなければならない。乳母の務に於ても仝樣、只子供の腹を滿たすればそれで宜しいと云ふ譯ではない、兒を健全にして病に罹らせぬ樣に注意しなければならぬと云ふ事が、乳を與ふる外に最も大切の務めであるのです。故に乳母でも兒護婦でも能く注意しまする者なれば、其兒は病を起さないのみならず、病身の子供でも注意の爲めに段々健となるの利益がある、然るに之に反して不注意であるなれば健全の子供も病を醸し、又は死に至らしめると云ふ樣な害が起て來る、それ故乳母を撰ぶには醫者と雇主とが注意しなければならなひ、ソは先頃大槪申しましたから演べませんが、併し何でも醫者の處に乳母を送て遣れば醫者が能く試驗をして其及第したのを雇ふと云ふ丈けては御損であらうと思ひます、十人來ても皆落第では隨分氣の毒です、私も去暮に乳母の試驗を賴まれたが柏子惡くて八人か

九人参ッたのが皆落第でした、ソレで一番終に参ッたのが適當でありましたから、之を採けて雇ひ入れましたが右の如き次第ですから、先づ貴所方が單簡の試驗をして善さゝうだから、乳の良惡だけ醫者に診て貰ふと云ふ事にして醫者は又貴所方の試驗では満足しないから尚ほ綿密に致すで御座いませう、其處で先づ大略の乳母の試驗と云ふ事を申さうと思います。

乳母でも兒護婦でも兒の智育に關係があると申す樣な事は、私が玆に御斷しするのはチト不適當で教育會にでも持ッて行ッた方が宜敷いと思ひ升が、それは皆引合に出るので后に至て御斷し致しませう、扨て此乳母を雇ふと云ふ適當と不適當とは一言に盡す事は出來ません、而して雇はなければならぬ場合と、雇た者も解雇さなければならぬと云ふ事は、已に此前御解かりになッたと思ふ。其處で乳母に就て大略ながら貴所方の御試驗は、第一乳母とは一躰何ふ云ふ者かと云ふ事、則ち「傭の爲めに置くのか、乳を飲まするが目的で置くのかと云ふ問を腦に置て考へて御覽になれば解かる、即ち「乳母は養ひを執る爲に雇う」と云ふ答へが出る、左すれば子供に適當して居るや否やと云ふ事が第一に起て來なければならぬ、又實際乳母の第一の務は「子供に養を與れる」と云ふ事です、ア子供を傳育ると云ふ事は第二の務になる。又第三は兒の健康を始終保護しなければならぬ喩へて云へば今日は寒いから衣物を厚く着せなければならぬ、熱がある樣だから早く醫者に請診なければならぬと時機を失はずに參る樣な事です、鳥渡玩弄物の如き物を含へても、色の附て居る者は毒が有りはしないかと云ふ樣な細密の事も注意し、若し顚蹶だなれば怪我を仕はしまいか、ヤケドを仕はしないか左樣の危險が無い樣にと氣附くべし、隨分

に乳母や兒護婦の不注意からして健康を害するのみあらず、終身の廃人に陷る事があるから、乳母でも兒護婦でも充分に此注意が出來るか出來ないかと考へなければならぬ。それ故先つ醫者の處へ送る前に、是等の點を一寸と一見なさるが宜し、決て乳母を雇ひたいが何町何番地に居る者だそうだから試驗して見て善かつたら送て呉れと云ふて、毎日々々引連て來るなぞでは往けません、斯樣の者は多くは落第です、斯く輕卒なる雇方ではなりません、それ故先づ乳母を雇ふなれば家に呼んで躰格を見、年齡其他聞ける丈けは聞て見、又乳房も一見し又た子を連れて來たらば其成長の善惡をも見なければならん、是を細く申せば第一に年齡、第二が躰格、第三が躰質の善し惡し、第四乳房の形狀、第五乳母の産んだ子供は健全か病氣か但し又た死んで居るかと云ふことを迄を問なければならん、尚ほ是を少し細かに申しませう。

年齡、乳母の年齡を申せば二十から三十五迄の婦人が適當です、就中母親と相類したる者が宜しいが、昔しから兎角年の相類した者と云ふに誤り考ひ居るものあり、則ち生母の年と乳母の年が似合て居らなければならぬと云ふので、四十八の産み納め位の者が何うぞ四十五六の乳母を雇ひ度いと思ッて錢と太鼓で搜し、又たは十四歳位で子供を産み十四五の乳母なんぞと云ッて搜しても、決して急に在る氣遣はない有ッても碌な者ではない、故に二十四五前后は分別も多少の經驗もあり、且つ此年輩の乳母は澤山にあつて又其頃が一番に宜しいのです、而して其乳母は産を幾度びしたか聞て見たが宜敷い、先づ二回三回目位の乳母が宜しい、始めて産した乳母だからとて惡るいと云ふ事もないが、是は兒を育てた經驗がないのです、何う云ふ風に抱いて飲ませたのが宜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しいか、子供は幾度位便通のある者か、病氣の泣聲か、餓い泣聲か、之を聞分けるには經驗を積んで居る者でなければ往けません、それ故初産の乳母よりも成るべくは二度目三度目位の者が宜しい。

體格、躰格で申せば成るべく壯健らしく、嚴丈に出來て居るのが宜しい、兎角世間で乳母は醜らしいのよりは奇麗なのなどを捜しますが、夫れよりは躰格の良否を見るが肝腎です、去りながら肥太て居るから宜しい、瘠せて居るから屹度惡るいと云ふ譯には往きません。先づ骨が太く肉が多くて脂肪の少ない婦人、夫れが一番宜しい、又大層肥太ッて居るも脂肪計りで肉と骨が細いと云ふ樣なのは惡るい、牛肉にしても脂肪肉は廉價い正真の肉が澤山に在るのでなくては往けません、故に成るべく勞働した百姓婦の如き强實なのが宜しい、肩はイカッテ胸の幅は廣く堅く太りてぶく〳〵せず、何れかと云へば先づ堅劒家角力者などの類に比へて見るべし。

躰質、是は女には直ぐ眼に附くことで、顏色が好いか惡いか、蒼い顏なれば貧血病か、但しは他に病氣でも有りはしないかと云ふの考へが起ります、又顏が薄紅く活潑で目が涼やかで皮膚の光澤あるが如きものなれば極めて健康、且つ精神も自ら歡樂を含んで無病であると云ふの鑑定が附きます。併し夫れ計り見たのでは往けません、顏色の黒いとか白いとか云ふ事は構ひませんから、唯皮膚の色が黒いとか褐色とか云ふを見たならば、是は地躰が赤黒いのか、血が多いからの故かを注視するべし、印土人や私などの樣に顏色の地躰褐色の者は、一寸見に血の多少健否は分明し難いです、而して顏の頬の邊はポーッと紅く、眼は凉やかで鼻筋は通つても通らんでも宜しいが、眼の涼かなのを吟味するが宜しい、歯並も好く揃ひ、真白で丈夫なのが宜しい、虫歯亂杭歯杯

は餘り宜敷くない、齒頂の惡いのは腺病質の一兆にて、俗に肺とか癆とか申す病に罹り易い、彼の皮膚に腫物が出來たり、胎毒深い抔と云ふは重に此質の人です、是等の婦人は兎角下唇も上唇も反覆ッて居る、又噺をして口の臭いのは善くない、必ず其内に病のある證據です。舌抔も肌理の細かいが宜しいが、夫れ等は醫者に御任せなさるが宜しい、頭髮は赤いのが宜敷いか、黒いのが宜しいかと云ふに、已に西洋人も申して居るが、赤き毛の人よりも黒い毛の人の方が乳の分量は多くして、且つ宜しい、併し日本人抔は人種上より黒いのが常ですが、或は赤き人もあれば黒い人もある、先づ何れかと云へば夫の胎毒深き質の者は頭髮が赤いです、是等は皆乳母と噺をしながら解かる事で、脈を診たり口を開かせて見ないでも知れる事で御座いますから御氣を付て御覽じろ。

小兒の存否を問ふ事、次に小兒の有無を問ふが必要です、御前の子供は丈夫であるかと聽けば、彼等の常として大概死亡したとは云はずしてあれは家に置て牛乳を飲ませ置けりとか、若くは里子に預けてあるとかと答へます、然らば其子供を連れて來て見せないかと云へば、今度は借兒をして來ます、子供は未だ口も利かない母親とも何んとも云はないから知れはしない、損料を出して他人の子を連れて來る故に、之を認めて其丈夫なるを眞事と思ふと大層違ふから、其不分明なるは醫家に御任せ成さるが宜敷い、ケレども其の有ると無しと丈けは注意なさるが肝腎です、又乳母に就ては何時産をしたかと聽くが宜しい、二年前産んだとか三年前産んだとか云ふのでは往けない、母親と年齡に少しは相違ありても宜しいが、子供の年齡が對して居らなければならん、當方の子供が三ケ月なら乳母の兒も二ケ月乃至四ケ月目

位が適當です、産を爲たての乳母と云ふ者は少ないが、餘り古いのは往けません、勿論貴所方が御試驗では十分滿足する事が出來ませんが、大凡及第するだろうと思召のを醫家の試驗に御遣しになると大層醫者も無益の手が省けて結搆です。

乳房、是から形狀に就て少し御咄し致しませう、乳房にも重いのがあり、輕いのがあり、小さいのも大きいのも種々ある、大きい葛籠には魑魅が這入て居て、小さい葛籠には寶物があると云ふが、成程餘り大き過ぎた乳は割合に乳が出ないのです、則ち先に申した脂肪が多いのです、故に乳房さへ大きければ屹度善いと申譯には往かん、又垂れ下ッた乳も圓錐形のもある、然らば大きな乳は皆惡いかと云ふに、餘り形の小さいのも宜しくない、而して産をする事四回目五回目位なれば、次第に垂れ下ッて來る、何うしても初めての人は圓錐形をして居る、(乳房形狀の圖)恰度此の中程の乳が宜しい、且乳首も餘り短い小さいのは往けない、又拇指の腹程に大きいのも、子供が頰張ッて飮み惡いからこれも往けない、矢張り中等が宜しいのです、且概して乳の良否を申せば乳房の重い輕いで大概は知れる、重い乳は善く、輕い乳は出が少ない、又疵などが有てはならぬ、靜脉が澤山張りあるのが宜しい、而して乳を屢々見た人は形丈け外見丈けで及第するかしないかゞ、大概解かります。

性質、次に乳母の性質に就て申せば、一朝一夕では中々說き盡されません、故に是を御雇ひなすッたなれば其后に於て能く撰擇なさらなければならん、併し私は今其性質に就て、凡そ六七ヶ條計りある其條目を讀み上げませう、勿論貴所方の御雇ひなすつた乳母には其樣な性質もありますまいから、別に六七ヶ條などゝ云ふ條目は要用でありますまいが、先づ初

めて御産をした乳母は、兎角に經驗に乏しき者であるから、成るべく經驗のある者を雇はなければならん、何故なれば乳母にしても經驗があれば、一向其生母に世話を燒かせず、襁褓を取換へるとか、樣々の用を辨ずる注意があります、又田舍の者は都の人に宜しいと云ふが、併し村に住ッて居る田舍婦は、兎角に氣がきかない、都の母は注意が屆くと云ふ傾きはある、注意の屆かぬ人では迚も氣の知れぬ子供の心を滿足させる事は出來ませんが、母が注意して程好く行くものとなる、且臆病の生母なれば少し活潑の乳母が宜しい。何故なれば生母は臆病で頻りに心配し、クヨ〳〵考へて居る處に乳母迄が臆病であると、双方の氣鬱が困じて乳が惡くなる、故に臆病の生母なれば活潑の乳母を雇ッて、互に一緒にさせると少し位活潑過きても、恰度程能くなります、又生母が活潑の人であれば乳母は是と反對に少し柔和にて沈着者が宜しい。是を一緒にすると又恰度程善くなります、又性急にして短氣の生母なれば、乳母は氣の長い且つ耐らへ情のある人歟、又は少し物の道理を區別する樣な者が宜しい、右樣に輕卒の生母で皿や鉢を蹴飛ばすと云ふ樣な粗暴人なれば、其處は乳母が鄭重に注意に注意しつゝ取扱ひ互の間が程善くなると云ふ樣な者です、又不勉強なる生母で、穢く成ッても搆はぬ、寢衣を着換るが面倒だと云ふ樣な人なれば、極めて勉強する働く乳母が宜しい。然るに若し輕卒の生母に輕卒の乳母、不勉強の生母に不勉強の乳母が一緒になると、今朝は寒いから此迄でも寢て居る、那處でも寢て居るそして子供はギャア〳〵と泣ても搆ひ附けんと云ふ樣な事になる、故に成べく是を混淆して程能くなる者を雇ふが宜しい、是等はお嫁さん自らも注意なさるが宜しいが、自分の性は自分には能く分り難し、左れば此にはお姑御

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も大に御注意あり度存ず」左れば顯微鏡で乳を撿査したり、又た分析したり幷に乳の分量を算るとか云ふ如き事は、勿論醫者の方でなすべき事ですが、天窻から足の先迄綿密に驗べなければ宜しい乳母を得る事は出來ない、一時間や二時間で迚も其分けの着くものでなく二日も三日も掛って乳母を撰ばなければならぬのだが、斯くして愈〻乳母を雇って宜しいと云ふ事なれば、先頃申上げた樣な注意を用ゐて使ひます、是で乳母丈けの事は大概御解かりに成りましたろうと存じます。

是よりは見護婦の御咄しです、前申した樣に唯帯でグル〱巻きにして、脊中に負はせ器械の馬の樣に跳ねさへ仕なければ宜しいと云ふ、夫れでは何うも満足する事が出來ません。クドイ樣ですが生母の家庭教育をば見護婦は助けつ〻行かなければならぬと云ふ務めがある。見護婦の悪るい爲めに屢々小兒に不幸を來す樣な例は隨分に在る、例之ば高い椽側か何かで、自分の遊びにコッテ餘念なき中に、子供が何處を徘徊て居ても知らない、其中小供は墮落てひどい疵を受けたとか又脊中から落して足の骨を折つたとか、隨分不幸ある事が起るです、近頃なれば骨を折て二月も三月も知れぬと云ふ樣な事もありますまいし、近頃なれば又十分の方便もありませうが、徃年或處の娘さんが見護婦に落されて足のギリをハヅして仕舞ッた夫れを少しも見護婦が咄さぬから、親達は之を知らずに居て療治する事を怠ッたから、遂に跛となり嫁にも行く事が出來ぬと云ふ事實を私は見當りました。又ストーブに天窻半分ヤケドしたとか云ふ樣な不幸の御噺しを申せば、隨分種が澤山御座います。

保育上に就て見護婦が注意しなければならぬ點は、第一に衣服飲食住居、次に戸外の散歩、又子供の遊

び事、子供の歩行、又病氣の有り無しに注意しなければならん、子供は如何に寒くても唯泣くより外に仕方はない、泣けば乳を飲ませると云ふより外氣が付かない樣では往ません、雪が降りさうだから羽織一枚余計に着せると云ふ樣な鳥渡した事ですが、夫れの注意が無ければならん、又いやしい兒護婦は食物に就いても自分で食べたいから子供の御セウバンをする爲に、雇主に頼んで買ひ、消化のせぬ物でも何でも食べさせます、夫れも時間の來た時分に與へれば宜しいが、始終食べさせて居る故に、無教育なる處の取扱を受けた子供は大きく成ッて始終食べたがる、口に何か含へて居ると默ッて居るが無くなれば直く泣くと云ふ樣な弊を起す事が屢々あります。之れは子供の世話斗りに掛ッて居られぬ母が、餘義なく物を買ッて與へ、子供の泣きを止めて置くと云ふ下等の人に多い、子供を育る事計りに朝から晩迄掛り詰る事が出來ぬから、自然に食べさせる、食べさせられたが習慣となつて、五才六才に成ッても食物が無ければ承知せぬと云ふ樣になる、モット小さければゴムノ乳首とか、オシヤブリとか甚だしきは噛切れぬから善いはと云ふて澤庵のシッポを吸はせて置くと云ふ樣な事が、抑も弊の起り初めであるのです。

又住居に就て申せば、住居は親の家には相違ないが、不潔の處や空氣流通惡しき處で育つるのは宜敷くない。又子供の衣服に就ては隨分面倒の議論が有つて、熱く温める方が宜しいと云ふ説もあり、又餘り温めるのも皮膚の彈力が弱るから往けないと云ふ説もある、就ては先づ適當と云ふ事を一刻も忘れてならぬ、襟巻などをするにしても戸外に出る時は如何にも怠らず之を巻くとも宜しいが、家の中に居る時又外から内に這入つた時は、直ちに之を止めると云ふ樣に

しなければならん、否らされば烏渡した事に風邪を冒くと云ふ様な事が起ります、凡ての肌着杯が不潔になれば看護婦とか乳母とか云ふ者に於て、尤も注意しなければならん、去り乍ら乳母とか看護婦とかに預けた儘で、母親は注意しなくても宜しいと云ふのではない、申す迄もなく其々に注意しなければなりません。先づ懐ろに居る間は乳母だが、少し歩行を始めると云ふ様になれば、看護婦となる故に看護婦は子供を育てるに於て、乳母よりも一層注意しあければならん歩行き始めるとしても、一向足元の調子が知れぬから、轉ろんでブッカッたり杯してヒドイ怪我をする事がある、玩弄物に就ても、匂うとか歩行くとか云ふ時分になると、母親の使つて居た剪刀をナニ知らず口に含へて、舌を挾んで切たと云ふ様な事がある、故に切れ物とか小刀とか云ふ者らは尤も注意すべきである、又菓物の食べ方も能く知ぬから、實でも核でも食べて仕舞ふ、今濱田君が櫻の實を食べて難儀せられた事を御咄して有つたが、夫れは産婦の事私の申すは小供である、小供では便秘になるとか血を下痢すとか云ふ事が出來る、曩きに或處にて二才の子供が少し胃腸の病氣で有ッたが、其處に隣りの子供が遊びに來て、櫻の實を持て居たから其子は頻りに欲しがると云ふので、最も子供を愛するの心持で、櫻の實を與へた處が、二歳の子供ですから核を出す事を知らない、二粒計り鵜呑みにした、其翌日私が診察した時に大層熱に成つて腹が固く厚く成つて居る、何か惡るい食物でも與へはせぬかと聞きましたら、何も別に食べさせはせぬとの答で有つた、併し私は之を信ずる事が出來ずに居つた所が、翌日に成て成程大便の中から櫻の核が出まして血を大便中少しく混じたと云ふの注進で御座いました、遂に癒ることは癒りましたが、菓の實に就

ても其様な害があるから、總べて是等は兒護婦が注意しなければならん、勿論母親が附て居れば兒護婦を要する事もない譯ですが、附いて居られぬと云ふ場合には據なく兒護婦を雇ふ、兒護婦を雇ふに付きましては從來の兒護婦では滿足する事が出來ません。今日本の兒護婦の性質概略を一寸と申せば、私の處の娘は惡戯計りして往けないから、何處かに奉公にでも遣りたいと云ふので、家の亂暴人を追出すが爲めに、兒護婦に遣るのです、故に一方では卑しき樣ですが、之れが爲めに此いたづら者の口を糊する事が出來、一方では大人を雇ふより便利で使い能いと云ふ樣な處から、八歳か十歳位の小娘を使ふて居る、故に雇ふ方も雇はれる方も間違つて居る話です、去れば是より兒護婦を雇ふ人は躰育と智育上に關して、只健康に育て上げると云ふ計りでなく、若し其子供が利發であるなれば、兒護婦に幾何の給金を與へても取り返すことは充分に出來るでありませう。是等は啻に一家の經濟計りでなく、躰育上敎育上等諸種に取り、一國の經濟ですから此上なしに兒護婦の有り難く必要なることが解ります。

兒護婦は如何なる者が適當かと云ふに、大凡に申せば年齡と性質と經驗と敎育と無病と是丈けの者は何うしても擇ばなければならない、兎角乳母や兒護婦を附けるにも馴んで居るから宜敷いと云はれますが一方なる或場合から云へば餘りに結構なる事はない場合がある、元と何でも彼でも乳を飮ませ、何んでも彼んでも慰め騙かして機嫌を取といふのだから勿論愛情がなくてはあらんが、或は愛情に溺れる弊が出來て來はしまいかとの恐れが無いでもない、今兒護婦の年齡を申せば、二十五歳から四十歳迄が適當して居る、何故かと云へば年を取つて居る方が自分で遊ぶより、子供を育てると云ふの注意が多い樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に思はれる、凡て斯う云ふ事をしては惡るいとか、凡ての衣食住の事から、戯れ遊ぶ道具、病の有る無し迄、兒護婦は人の世話に成らずに、自から其子を保育すると云ふには、二十五から四十位迄が宜しいと思ふ、然らば四十以上は何故に惡るいと云ふに殊に日本抔では若隱居と云ふ事がある、四十位になれば若い者を働かして自分は火鉢の測に坐つて御婆樣に成つて仕舞う、加之生理的に往けなくなるとです、一方の子供は日に月に進まんとしつゝある、然るに御婆樣は其子供と一所に馳け廻はる事が出來ぬから、何うしても其權衡を取る事が出來ぬ、四十以上でも隨分に矍鑠たる婦人がある、併し總べて之を申せば、四十以下でなくては眞の元氣は無いから、直に可愛相だ、何うしては可愛相だと云ふ樣な處から、婆さん育ては、三百安いとか、八錢安いとか申す諺がありますが、成程我儘心計り增長します。就ては成るべく適當の宜しい兒護婦を置かねばならぬ、其性質を細かく擧げて申せば第一子供を愛すると云ふ心がなければならぬ、唯愛すると云ふても諺に云ふ不仁の仁で、唯だ可愛相だ〳〵と云ふ斗りでは、反て不爲になりて往けない、子供を同く愛するにしても、餘り我儘を爲せると年取ッてから不幸になる事があるから、成るべく教育は嚴格に仕なければならん、若し子供が我儘仕放題の事を仕ても、之れを其儘に放任して置けば、當坐は如何にも愛するでありませうが、眞正に其子供を愛すると云ふ者ではない、去れば慈愛の心は海の如くに深かしとしても每も嚴格なる氣象が無ければならん、且子守女は利發で無ければならん、利發と云ふても狡猾ではならん、狡猾の者に養はるれば自然子供も狡猾の氣象を具へる、故に虚言を吐く兒護婦は往けない、逆ろう兒護婦も往けない、高慢の者、怠る者、無性の者是等の根性

が有る者は徃けません、且つ兒護婦は英敏で無ければあらん、斯く彼の人は思つて居るから、斯う仕なければならんと云ふ様な、英敏で捷どく無ければならん

又記臆が能く無ければあらぬ、何故なれば雇主から如何なる事を命令されたか、其記臆が悪るくては徃けない。又不品行なれば兒護婦乳母たる事は出來ない、又極めて謹み深き者で無ければならぬ、人と逆ろうとか、井戸端會議でも開いて、讒長となる様な於婆さんでも徃けません、又影日向をする様な人でも徃けません、此事は乳母の御断しをする時にも申したが、雇主の前計り躰裁能くして、子供を愛する様でも、影では子供を放つて置くと云ふ様な者ではならん、又奇麗なる事を好むと云ふの性質か無ければならん、是は一朝にして解るともなく直ちに進む事も出來ませんから、世間の噂や何かに因て次第に知る様にするのです、西洋邊では（日本でも近頃行はるさうですが、是れ迄雇人に出て賞美すべき人なれば、今迄加藤さんのお家に務めて居て、別段の不都合が無ければ、是處で濱田さんの處に奉公に徃くに就て、加藤さんに此者は不都合なき者又は忠實なるものであると云ふの、保證を頼むです、（悪いあれば勿論保證が出來ぬが）さうすると濱田さんが今度雇ふに就て、加藤さんの保證があるから安心して雇ふ事が出來る、日本でも今迄には其様の事も有りませんでしたが、折々人が断しする事も有りますから、此后其方法も出來るで御座いませう、又教育のある人を望まなければならぬ、教育のある人が宜しいと云ふ事は先づ子供は智慧の發達する最も初めなる者であるから「是は何ですと」云ふて頻りに問ふのです、「是は母様何うするのです」「何に使うんです」と云ふ様に、シツコク聞くのは甚だ煩さい様ではあるが、

子供に取ッては是を問へば問ふ程智慧の發達する者であるから、問はない樣な子供は自然智慧の發達が遅いのです、若し之を叱る母親が有ッたならば母親の方が間違です、子「是れは何です、母「白墨子「何に使ふのです、母「塗り板に書くのです、子「何で拵るのです、母「石灰で、子「何うして白いんです、母「黒い板に書くから白くなければならぬと、解る丈けは委しく噺して聞かせるが宜しい、然るに子供が問ふと却て虚言を敎へる者がある、白墨は温飩を丸めた」なぞと烏渡遁れに子供を騙します、處が子供は僞りとは知らないから后來余程の損をします、其外幾分の敎育ある乳母や兒護婦なれば、彼の幼稚園で遊ばせる樣な方法を以て仕ます故に、其發達も次第に敏く、利發にもなるから何うしても敎育の有る者でなければならん、又經驗は先程申した通り乳母に於ての經驗と同樣、又無病なる事、殊に傳染性の病のある者は往けない、癩病などは一目して解かるが遺傳の梅毒杯といふて容易に知り難き者もあるが、是等は往けない、或る家で兒護婦を雇つたが其兒護婦が瘡毒が有つた爲めに、外の兄弟は何ともないが其弟一人丈けは、兒護婦より傳染して今日に至る迄、始終目を病んだり、腫物を出かしたり、難澁して居ります、故に凡て傳染性の者は惡い、近頃は肺勞是れも傳染ると云ふ説があるから、肺勞性杯も兒護婦には往けない、其外種々傳染病はあるが病を帶びて居りながら、健康に容貌を粧ふて居るのがある、是等は能く醫者に就て選んで參らなければならぬが、右の樣に次第に選んで參ると余程兒護婦なり、乳母なりに乏しく成つて參ります、併し一應は皆夫々に注意すべき事では有りますし、又注意しなければ大なる不都合の起る事です、併し其中で稍融通をなし得る處、即ち敎育とては無いが眞忠であるとか、

痴鈍であるが受けたる教育は澤山有るとか云ふ樣な者は、先づ吟味したる上て宜しい事もありませう、其邊の心得も無ければならぬ、且つ智育體育の並行しなければならんと云ふ處から、今日の小學にも體育杯が這入ッた譯でありませうから、是等を御實行なさるゝに於ては、餘程衛生會の爲にも御利益が有りませうし、又私も醫者として大層有り難い事に思ひます。

衛生叢話　其一

森　理　記

千葉婦人衛生會の幹事諸氏より去る四月廿七日同會第三次總會の節余か演説せる採光法の手扣を請はる然るに當時匆忙の際聊か記臆のまゝを演べしものにして別に手扣と云ふものなく而て又た之れを記するの餘暇に乏しきが故に嘗て同會に於て爲せる談話一章を記して以て之に換ゆと云爾

凡そ人として誰にても其子を愛育しないものはありますまい然れども其愛育法の宜しきを得るものは殆んど稀れでありまする茲に内務省衛生局の年報中全國死亡者年齢表を取りて見まするに五才未滿にて死亡するもの實に其全數の四分の一強に當りて居ります［死亡者總數六十六万三千二百九十八人にして其内十六万九千六百四十九人は五才未滿とす］なんと比例上驚くべきの多數ではありませんか稚兒は固より自衛する事は出來ませず其健否生死は殆んど全く之れを擧げて父母の愛護心に賴るものです世の父母殊に母たる人は宜しく細心注意を加ふべきことでありまする

却說稚兒の疾病にも種々ありますれど私の是迄見聞せし處に據りますれば腸胃の疾病が最も多ひ樣でありまする而して其原因を討尋まするに多くは食物取り分け間食と稱する菓子類の用法不適即ち其量を過

すにあります例之へは社會上多數を占居る中等以下の人に於きましては大概其愛兒を無識の傅婢か否らざれば未だ乳臭の失せざる童女に放任すを常とします然るに彼等は其意に適はざるときは稚兒の飢餓を訟ふるも家に歸りて食餌を取らしむるの煩はしきを厭ひ若くは自己保傅の工なるを誇らんと欲し漫りに不良の食品を與ふるに因り殊に下等社會の細君の如き數職兼任のものに於ては終日稚兒の守傅をすることが出來ません故に餘儀なく菓子の類を投じて自己の近傍を去らしむるに因ります又た上流社會に於ても父母自から之れを鍾愛するの餘り笑ひしと云ひては菓子を與へ泣きしと云ひては食品を與へて之れを慰藉めまするを以つて知らず識らず過度となりまして遂に腸胃の疾病を惹き起しまするは敢へて奇らしくはありません。因に云ふ幼稚なるものに對し煎餅等を嚼みて與ふることを往々見る所でありますが其人が健全無病なれば格別なれども若し肺病或は梅毒等がありましたならそれこそ大變終身の痼疾を傳染することあれば最も注意を要せねばなりません貰ひ乳も同斷です」之れが爲め屢々碎玉の憾みを聞くはまことに痛はしき限なりと申すべし左りとて稚兒の食品を求るに當り之れを謝絶し若くは一々其利害を說き聞かすと申すことも中々行ひ惡きことでありますれば寧そ彼の桃太郎の遠征談花咲爺の勸懲話等の如く母の懷中に睡眠する時に於きまして御伽咄しとなして極めて平易に云ひ聞せまするのが第一番手短な法でそふして最も感觸を牽くことゝ思ひます諸君にして若し此說に御同感でありますれば宅に此食物の談のみならず總ての衞生上の事柄を簡明平易の談話となし以て本會の雜誌に掲け世人の材料に供せられては如何でありましやう私は此考案よりして甚だ拙き御伽咄しを作爲しましたから厚顏しくも隗より

始むるの意を以ちまして暫時諸君の御耳を汚します御聞き苦しき所はどうぞ御免下さゐ

昔し／＼去る所に母子の鼠が住んで居りました或る晩のことでしたが母の鼠は食物を索むるとて數多の子鼠を引き連れ壁の穴より庖厨へ出で來りて此所彼所尋ね廻る内宵の御客の殘したるお魚の皿中にあるを見付け子鼠等を皆な呼び集つめて銘々に之れを平分てやりました其内一疋のわんばくなる子鼠は自己に頒與られたる分量に滿足せず母の鼠の懇なる戒めに戻きて尚ほ皿中の餘肉を貪り喰べました雖がて御障子の外で猫の聲のするをきゝて他の子鼠は母の鼠と共に元との壁の穴へ逃込ましたが彼の强情ある子鼠は餘り多く食せし爲めに御腹が彫大れて壁穴へ入ることを能はず遂に猫に喰はれて仕舞ました」

太郎よ御前もおつかさんの云ふことをきかずして多く食するときは病ひと云へる猫の爲めに食ひ殺されますぞ

○奇病　七月二十日附にて米國より達したる報に紐育地方に現今一種の奇病發生して漸次蔓延の徴あり其病の初起は發熱するに過ぎざれば其後發すべす小便を洩すこと數々にして遂に死す其遲きは十日内外速かなるは一晝夜にて斃れ且つ互に傳染して死する者甚た多し同地に在て三十年來醫を業とする西洋の國手某も未だ其病に名くること能はず頃日來該患者に接して切りに其治療法を研究せしが爲め忽ち又感染して鬼籍に登りたり云々と上海新報に見へたり

○菓子に就て。

本篇は去月二十八日第三回内國勸業博覽會の出品審査概略說明會に於て審査官古川榮氏が演述したる大要を筆記したる者なりと普通衛生會雜誌第十九號に掲載せるものなり

余は今菓子の概畧を述べんとするに方り、之を(一)菓子の定義(二)菓子の利害(三)審査の要點の三項に別たんとす。

第一　菓子の定義。

菓子の二字を分析し見よ、菓は草冠に果にして草木の花開き實に結びたる果にて、子は丸てき手ごろのものなり、左れば菓子は之を草木の菓實に擬したること疑なし、彼の桃、梨、西瓜等を水菓子といふにても之を證すべし、又菓物と今日の菓子との中間物あるも其一證なり例之葡萄を砂糖に漬て乾したる菓子あり又柿を小豆寒天等に加へて柿羹を造れるものあるが如し、　今日の菓子は穀菽砂糖より成れども、往時いまだ砂糖の存せざりしときは蜂蜜をもちひ、次で水飴をもちひ、終に今の砂糖にいたりて、大に進歩せしものあらん。　菓子の創製は何頃なるやを知らねども隨分古きことなるべし、その名に「カステーラ」「コムペートー」などの洋名あれど、その多くは源氏名のやう聞ゆるなり。　菓子を大別して、干菓子、蒸菓子の二種とす、干菓子は乾燥して貯藏に堪ゆべく、衛生上の害も少なければ、余は主として蒸菓子の利害を茲に述べんとす。

第二　菓子の利害。

我邦に於て菓子の需用頗る大なることは、繁華の地にありて少くも一町内に二三軒の菓子店あるをもつて知るべし。　抑も菓子は直接の食物にはあらずして、所謂嗜好品に過ぎざれば、彼の酒類に於けると同じく、適量を用ふれば決して其害を受くるの虞はなし、といへども之を濫用すれば種々の害を惹起すべし

菓子の害を述ぶるに前たちて、菓子の成分を案ずるに、蒸菓子の主成分は小豆の餡にして此に多量の砂糖を加へて甘味を附け且腐敗を留めたるものなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫學士坪井次郎氏の試驗に據れは、飴は百分中四十分以上の砂糖を含むといふ。斯の如く飴は多量の砂糖を含有するか故に、砂糖の通性として、食物の消化吸收を妨けて消化機能を害すること甚し、例之喫飯前に蒸菓子二三個を食すれば飯の味必ず惡し、又酸敗して溜飲を起すも菓子の停滯したる兆なりとす、又菓子は齲齒を發すとの說あり殊に小兒に多しとす、小兒に濫に菓子を與ふるは直接及ひ間接に害あり如何となれは菓子を食すれは必す口渴く渴けは必らず水を飮む此水若し生水なれば虎列剌病流行時には殊に危險なり、又甚た危險なるは病人を見舞に菓子を持參するの惡癖にして、殊に腸窒扶斯患者は菓子と情死するに至ることあり何故となれは本病恢復期患者の食慾は大に進み居りて醫者は嚴に之れを止むるも枕頭山をなすの菓子を見れは之を撮み喰しために病を惡くして鬼籍に上ることあれはなり。

菓子を製するに原料を精選せさるへからざるは勿論の事なり、もし然らざるときは麥角を穀粉中に存して其毒に中ることあり、又虫つゝりたる穀粉を用ふれば貯藏に堪へざるの損あり。又菓子を製するに銅製鍋を用ふるときは從つて菓子の中へ銅を含むの虞あり。着色もまた注意せざるへからず、色素中に毒分のあることあれはなり。酒の中に屢々混ぜある「サリシール」酸は未た菓子中に見出さず、「サッカリン」もまた之を混ぜるを見ず、尤も或有名の菓子商は濕り易き菓子の中に私に「サッカリン」を加ふるといふ、抑も「サッカリン」は砂糖より三百五十倍余甘くして經濟上には利益あるにもせよ斯の如きものは可成使用せざるを宜しとす。

第三　審査の要點。

九鬼審査官長の出品審査梗概に曰く

菓子類ハ良品ニ乏シク或ハ徒ニ無用ノ修飾ヲ施シ

殆ド玩弄物ニ類スルモノアリ或ハ漫ニ衛生ヲ口實トシテ菓子ノ本性ヲ失ヘルモノアリ

實に名言といふべし。中には改良々々と唱へて徒に西洋擬の菓子を製して之を日本人に供給するものあり、或は意匠濃に過ぎて却て美術館の中に轉じたきものあり、或は大樓、高閣を搆へて運搬も自由ならざるものあり、殆ど玩弄物に類すといふも敢て過酷の評にあらざるべし。

審査の要點は左の項目に示すが如し。

一、品質　精撰するを要す。

二、形狀　丸く手ごろなるべし。

三、香味　日本人の嗜好に適すべし。

四、色澤　有害の色素を用ふべからず。

五、滋養　養分概して多きを要す。

六、乾燥　干菓子は其名稱の如くあるべし。

七、調製　粗漏なるべからず。

八、貯藏　久しきに耐ふべし。

九、結晶　砂糖の問ふ所なり。

十、甘味　砂糖外の甘味素を禁す。

十一、價値　相當なれば可なり。

十二、適用　廣ければ可なり。

十三、賣額　廉なれば賣るゝ故大なるべし。

十四、販額　廉なれば販路を擴張し得べし。

本會錄事

○十月總會　九月開會すべきの規定なれども虎列剌病蔓延の際なりしを以て延會し十月四日京橋區宗十郎町七番地大日本私立衛生會事務所に於て午後一時より開會す此日や昨夜來降り續きの大雨なれば會員の出席如何あらんと種々苦慮せしが來會する者四十余名に及びたり當日前半期間の會計報告をなし次に役員の改撰を行ひ畢て色川圀士君(お猿の人まね)と云へる題にて演説せられ長與專齋君(邸内清潔法に就て)講演せられ散會せしは午后五時なりき

役員の改選を行ひたるに左の如し

會長　加藤鈴子　　副會長　南部隈子
幹事　濱尾さく子　　仝　細川靜子
仝　村岡久野子　　仝　荻野吟子
仝　西ます子　　仝　岡田みす子
仝　榊幸子

○虎列剌病發延　府下に於ても續々發病者あるに際し本所避病院の如き日々患者增加するを以て聊か之れが救助をなさんと役員發起人と相圖り看護人胸掛幷患者用胸當寄贈せしを以て東京府よりは木杯一個下賜せられ東京府衛生課長本所病院長よりは謝狀を贈られたり尤も此寄附の件に付廣く會員の方々へ御相談致すべくの處事急なるを以て其暇なく右寄贈致す事と相成候間左樣御承知下され度候

東京府より下附せられたる賞狀寫

大日本婦人衛生會

東京府本所病院へ看護人胸掛三拾四枚患者用胸當貳拾五枚寄附候段奇特ニ付爲其賞木杯壹個下賜候事

明治二十三年九月二日

東京府知事從二位勳二等侯爵蜂須賀茂昭　印

東京府衛生課長本所病院長よりの謝狀寫

拜啓陳者今般貴會より東京府本所病院へ看護人胸掛幷ニ患者用胸當御寄贈被下早速夫々使用致候處一同御篤志之程感容罷在候に付御序を以て會員各位に此趣御披露被下度希望仕候敬具

明治二十三年九月十一日

東京府衛生課長　武昌吉
東京府本所病院醫長　宮本仲

大日本婦人衛生會々長
加藤鈴子殿

本所病院へ寄附したる人名左の如し

濱尾さく子細川靜子大澤さく子加藤すゝ子南部くま子長與その子村岡久野子榊幸子

（自明治廿三年三月至明治廿三年八月）半年度計算表

收入之部

會費	一四三円五八八
寄附	七〇〇〇
特別雜誌費	七〇〇〇
三井ヨリ引出金	三〇〇〇〇
合計	一八七五八八

支出之部

事務員給料	二五円〇〇銭〇厘
會場費	一一円〇〇銭〇厘
筆記料	一七円〇〇銭〇厘
事務員手當	三円五〇銭〇厘
新聞廣告料	二円〇二銭〇厘
諸印刷費	四三円六八銭二厘
郵券并端書	二三円七二銭八厘
筆墨紙	二円四五銭五厘
器具費	一円五〇銭〇厘
親睦會并總會入費	四二円五五銭〇厘
雜費	二円〇〇銭〇厘
合計	一七四円四三銭五厘
殘　收支差引金	一三円一五銭三厘

三井銀行金御定高	八七円五七銭四厘
利子	二円一二銭五厘
總合計	八九円六九銭九厘
内　八月十一日引出金	三〇円〇〇銭〇厘
十月十六日預金	二〇円〇〇銭〇厘
殘　差引金	八八円六九銭九厘

右確實也

會計掛

明治廿三年八月三十一日現在會員數調

總會員三百七十五人

内譯

修身會員	十一人
府内通常會員	二百十六人
贊成員	三十四人
地方會員	七十四人
千葉支會々員	四十八人

(自明治廿三年三月 至仝年九月)入退會者總數

入會者	二十五人
退會者	十六人

入會者宿所姓名

澤邊れん子	芝公園八十二號
青山孝子	小石川區武島町廿一番地
吉川松子	神田淡路町二町目七番地
高塚淸子	芝新門前町三番地
須田いな子	小石川區春日町四十九番地
平井光江子	芝區櫻川町十六番地
井上むら子	麹町上二番町三十一番地
山縣友子	永田町官邸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

川崎ため子　本郷妻戀坂上
串田夫人　日本橋區荒布橋側百十三國立銀行内
石川鏡子　麹町區五番町十四番地
井上ふみ子　神田駿台袋町十五番地
山本ふさ子　日本橋區川瀨石町九番地
荒井たか子　四谷區舟町四十七番地
神中夏子　兵庫縣姫路市西呉服八番屋敷
内田貞子　仝西紺屋町
木村繁子　仝東二階町三十五番邸
吉田志滿尾子　仝下寺町裏三十四番邸
永田伊尾子　仝東二階町十八番地
水野志滿子　仝一丁町二十四番地
古川久子　仝下久長町
西川ふみ子　水戸重罪裁判所官舍
渡邊玉子　横濱元濱一町目
片岡玉子　京橋區木挽町十丁目十番地
岩崎さき子　下谷區練塀町

退會者

石本ふみ子　市岡幸子　井手かね子
小鹿島ふて子　柏熊ゑい子　香月夜雨子
竹澤里子　竹田常子　加藤秀子
曾根みつ子　中村たく子　宇川みつ子
荒川うめ子　三善すゞ子　菅井ため子
上野こま子

○本會雜誌印刷人森田豐氏は都合により除名致し以來は八木吉六氏を以て印刷人と相定め申候

○本會々費は今回より府内會員に限り毎月取集人差出候間印鑑御檢査の上可成其節御渡し被下度願上候也

但印鑑は木製にして表面には隷書を以て私立大日本婦人衛生會の十字を彫刻し又裏面には全隷書を以て印鑑の二字幷に本會の印章を刻せり其圖面左の如し

○

私立

大日本婦人衛生會

○印鑑

事務掛　大田いく子

大日本婦人衛生會附屬衛生食物研究會主意

衛生の苟且にすべからざるは大方の能く知らるゝ所あれは敢て此に贅せず是夙に各衛生の設あるを以て知らるべし

我等聊か感ずる所ありて曩に婦人衛生會末席を汚し爾來此の道に心を委ね日夜苦慮する事久し是只人生至寶の健康を得し天賜の幸福を全うせんとの希望なりされど衛生の道も順序を追ふて進まざれば其効も空しかるべし衛生の第一に講ずべきは飲食を措て他あらじ次て衣住育兒看護法の必要なる今更云ふをまたずと雖もそは順を追ふて他日之を講究する者とし先づ今日着手の初めに當り食物研究會を起すは衛生上直接に利害ある物あれば此に本會を起すこととはなりぬさて本會は只管衛生の主旨に隨ひ和洋折衷の調理を會員互に研究し料品の滋養の多少等は親しく衛生試驗所の分析を乞ひ物價の廉にして滋養食物研究し調理を併て鹽梅の精巧を得せしめんがためなりもとより貴婦人方に厨下の業は不要の如く見ゆれども衛生を重じ家政を重とするには食物の研究一日も苟且にすべからざるなり以上本會の主旨大略として書き記しぬ大方の貴婦人淑女御賛成あらまほしくこそ。

衛生食物研究會假規則

第一條　本會ト衛生食物研究會ト稱シ假ニ麴町區飯田町六町目七番地岡田ミス子方ニ置ク

第二條　本會ノ目的ハ價廉ニシテ滋養ノ多キ食物ヲ撰ミ和洋折衷ノ調理ヲ研究シ會員互ニ是ヲ日々實際ニ行ヒ専ヲ衛生上ニ効驗ヲ現スヲ旨トス

第三條　何人ヲ問ハス本會ノ目的ヲ賛成入會ヲ望ルヽ諸姉令孃ハ直ニ入會スルヲ得可シ

但入會ノ際器具料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

第四條　本會ハ當分毎月三回第一第二第三金曜日午前十時ヨリ開會ス

但出席ノ有無ハ開會一日前ニ報知アルヘシ報知ナキハ出席ト見做スヘシ

第五條　本會ヘ參會スル者ハ一回金貳拾錢ヲ會費トシテ納ム可シ若シ會員外ニシテ臨時出席ヲ臨マルル時ハ來會ヲ許ス

但會費二十五錢持參アルヘシ

衛生食物研究會設立ニ付各一圓五十錢ツヽ寄附の人名左の如し

濱尾さく子　西ます子　仁科とも子
加藤すゞ子　南部くま子　村岡久野子
岡田みす子　志賀八重子　三宅[illegible]子

品物寄附人名

食皿十二　麵麭皿二十四　珈琲茶碗十二　珈琲瓶一　砂糖入一　スープ皿十二　チイースプン十二

右大森八重子より寄送せらる

食器臺二　看板一

右南部隈子より寄送せらる

○會員募集の便を圖らんが爲め左に本會々則の全文を掲載致し候間會員諸君は一層の御奮發にて各出來得る丈同志を御勸誘被成下度左すれば未だ會運は微弱と雖ども諸君の共力と熱心とを以て實際の事業を興し廣く公衆の安寧幸福を增進し本會をして隆盛ならしむることを得べくと存候是皆會員諸君の熱心に付き御依賴の外無之候若し本會の事業に付き事務に付き御心付の事有之候はゞ御遠慮なく御申越被下度又諸君にして衛生に關する御質問有之候節本會に於て諸先生の高論を仰ぎ答辯可致候尚演說談話其他本會に有益と認むる事は細大となく御投寄あらんことを。

私立大日本婦人衛生會趣旨書

夫れ人の此世にあるや徒に生活するを以て滿足する者にあらず然らば高尚の生活を爲す事を務めざるべからず高尚の生活とは天賦の能力を開發し智德を磨き職分を盡し幸福快樂の生涯を爲すにあり然れども健康の身體にあらざれば以て此生活を爲す能はず衛生の法を知らざれば以て身體の健康を保つ能はず衛生の法豈に一日も忽にす可けんや抑衛生の法たる一にして足らずと雖ども衣食住の改良育兒法及看病法等の如きは最も緊要なるものにして皆吾等婦人の掌理する所吾等の責任重しと云ふべし今や矯風會慈善會交際會等相尋で起り吾等婦人社會も漸く其面目を改めんとするは與に喜ばしき事なれ共衛生の一事

に至つては更に注意を惹かざるもの丶如し實に慨かはしき事どもなり依て相謀て玆に一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會と稱し毎月一回集會を開き熟練の學士を聘して先づ衣服の洗滌食物の調理住家の洒掃及看病育兒の方法等を講究し倘ほ之を筆記して雜誌を編輯し會員に分ち以て吾等婦人の責任を盡し聊か同胞の爲めに盡す所あらんとし玆に歳月を經過するに至る江湖の諸愛姉擧つて賛成あらんとを切望の至に堪へず

私立大日本婦人衛生會規則（改正）

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する向は身分の尊卑を問はず何人にても入會するとを得

第四條　會員たらんと欲する向は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四拾三番地に置く

第五條　入會後轉居する向は速に事務所に通知ある可し尤死去の節は親戚知友等より通知ある可し

第六條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第七條　男子にして本會の主義を賛成の向は之を賛成員とす尤も會費金は本會員に同し

但本會に功勞ある向は役員の協議を以て終身賛成會員（無會費）とするとある可し

第八條　本會に左の役員を置く

會長一名　副會長一名　幹事七名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事は會員の投票を以て之を互撰し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托
するとあるべし
第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し
又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を
處理し書記は上役の命に從て諸記錄及雜務を掌る
但幹事の分課を設けて　第一會計　第二編輯出
版　第三庶務とす
第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より
臨時に指名委員を置くことあるべし
第十二條　會長副會長及幹事の任期は一年とす尤も
再撰するも妨なし
第十三條　會長副會長及幹事は無給料とし書記は相
當の報酬を給す
第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外毎月一
回として通常第一土曜日午後一時より之を開く
第十五條　每會學士を聘し講義演說を囑し本會々員
の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し隔月
各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものと
す
但し演說の間に談話を交ゆることあるべし
第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本
會々場に誘致して傍聽せしむることを得
第十七條　講義演說の際男子の傍聽を禁ず
但會員に緣故ある男子は此限りに非ず
第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀
行に預くるものとす
但些少の金額は日々の費用支出の爲事務所に引
出置を得
第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の検印を要
す
第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品
等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の
品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するもの
とす
第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ
向け振出しある可し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

但不得止場合には郵便劵(五厘劵に限る)を代用するも妨けなし尤一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の向は郵便劵二錢を添ふ可し

第廿三條　每年三月九月の集會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　每年九月の集會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる様起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證返送費として郵劵二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條　退會せんとする向は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

○本年三月以降本會へ寄送せられたる雜誌左の如し

會員名簿	一册	榊　幸子
普通衛生雜誌	六册	通普衛生雜誌社
日洲衛生會報告	二册	日洲衛生會
埼玉衛生雜誌	七册	埼玉衛生支會
三重私立衛生會雜誌	四册	三重私立衛生會
青森縣第拾一回地方衛生會議日誌	一册	青森衛生會
愛媛衛生雜誌	一册	大日本私立衛生會愛媛支會
大日本婦人教育會雜誌	二册	大日本婦人教育會
學生之名譽錦の霞	十號	弘文館

ゆにてりあん　第一號　惟一社
新小説　第一卷　同好社
大同新報　二冊　惟一社

○高山齒科醫院ハ從前ノ通リ銀座三町目十七番地ニシテ院長高山紀齋出張シ日進ノ治術ヲ懇切ニ施シ加フルニ米國ヨリ歸朝セシ齒科ドクトル片山敦彦モ毎日午前八時ヨリ午後五時迄同所ニ於テ施術ニ從事ス

○高山齒科醫學院ハ芝伊皿子町七十番地ニ設置シ嶄新ノ學術ヲ敎授シ高等ノ齒科醫ヲ養成スル敎場ニシテ更ニ「ドクトル」片山敦彦齒科開業醫瓜生源太郎ノ兩氏ヲ增聘シ一ハ齒科醫學ノ敎授ヲ擔當シ一ハ實費施療ノ主任醫トナリ此他練熟セル助手ヲ增加シ入學生及ヒ齒病患者ニ便宜ヲ與ントス

○入學規則摘要

修學年限	二ケ年
入學料	金貳圓
授業料一ケ月	金壹圓五拾錢

細則ヲ請求セントスル者ハ郵便切手貳錢ヲ要ス

明治産婆看病學校規程

第一條　明治産婆學校と明治看病學校とは當分校舍を一にし以て二學兼修の人に便にす

第二條　明治産婆學校幷に明治看病學校生徒たらむと欲する者は體格强壯年齡十八年以上の婦人にして特に品行の方正なるものに限る

第三條　明治産婆學校及明治看病學校は慈善の精神より成る故に其授業料の如きも極めて薄からむを欲し當分一ヶ月の授業料を金五十錢と定む而して二學兼修の者たりとも此以上を徵收せず

第四條

第一項　明治産婆學校は修學期限を十ヶ月とし之を二學期に分つ其課程左の如し

第一學期

一　解剖學及生理學の大意
人身體の總論、婦人生殖器及骨盤等の各論、血行器、呼吸器、消食器、泌尿器、神經系、筋肉等の機能の大意

一　産婆學
妊娠、分娩、産蓐の平常經過及其取扱法、妊娠、分娩、産蓐の異常經過及其際産婆の爲すへき務、初生兒の主なる疾病の大意

第二學期

一　産科用模型演習
妊婦、産婦の診斷法及産婆に必要の手術式

一　臨床實驗

第二項　明治看病學校は修學期限を壹ヶ年とし之を二學期に分つ其課程左の如し

第一學期

一　解剖學
骨學、靭帶學、筋學、內臟學、脉管學、神經學の大意

一　生理學
人身體の化學的成分、血液及血液循環機能、呼吸機能、分泌及排泄機能、消化及吸收機能、榮養品、動物温、運動論、神經生理、胎生學の大意

一　疾病の種類
呼吸器病、血行器病、神經系病、消化器病、泌尿器病、傳染病、全身病等

第二學期

一　看病學
一般看護法、看護法各論、治療介輔各論、外傷處置、急症救助法等

一　實習

第五條　明治産婆學校及明治看病學校は年始、年末、暑中、大祭日、日曜日の他は毎日授業す

明治二十三年九月

東京市京橋區弓町廿三番地

明治産婆看病學校假教場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

遞信省認可

會員諸君に望む

本會設立以來次第に盛運に赴き今日にては無慮三百名の會員と一支會の設立を見るに至りしも唯毎月一回の講談會と隔月一回の雜誌にては到底實際の効益を社會に普及するに足らず勿論雜誌を增刊し且つ衣食住育兒看病等に就て實際の事業を興し廣く公衆の幸福平和を增進せんことこそ本會の素志なりとは云へ會運猶微弱にして其機に至らず常に甚だ遺憾とする處なり、會員諸君は固より衛生の必要を知り給はん從つて婦人衛生會の事業の効益あることを認め其實行と普及とを希望せらるゝならん請ふ自今一層奮勵して各々出來得る丈け同志を勸誘し衆力を結合せられよさらば次第に勢運盛に基礎堅まり本會の事業を擴張する又難きにあらざるべし、社會の事總べて單身孤力を以て成就するものにあらず殊に本會は一個人の私有にあらずして會員諸君の衆合躰あり故に本會の事業は悉く會員諸君の熱心に依賴せざるべからざるなり

私立 大日本婦人衛生會

御注意

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員
荻野ぎん子
鈴木まさ子

發行所
東京下谷區練塀町四十三番地
私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人
東京麹町區三番町六十七番地
巖本善治

印刷人
東京麹町上二番町四十八番地
八木吉六

秀英舍印刷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN